

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3072100559		
法人名	社会福祉法人 紀成福祉会		
事業所名(ユニット名)	グループホーム サニーワン(ふる一つはうす)		
所在地	和歌山県日高郡日高町大字初湯川213-1		
自己評価作成日	平成27年2月1日	評価結果市町村受理日	平成27年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成27年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との繋がりを大切に、施設近くで毎年行われる伝統ある神社の祭りや小学校の運動会、地域のふれあい祭りに参加しています。また、地域の小中学生や保育園児に来訪して頂いたり、地域のサークル「短歌の会」の方々に御越し頂き、入居者の方々と楽しく交流をされています。施設の夏祭りなどの行事には、地域の人々が多数参加し交流する機会を設けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間部に位置している為職員の確保が困難であったり、職員の通勤が遠距離の為、緊急時の職員体制がとり難かったりと様々な地理的環境の問題を抱えているが、施設長・管理者・職員は夫々に地道な努力を重ね、着実に地域に解け込みつつある。四季を感じる豊かな自然の中にあって喜びや楽しみの多い暮らし方を実現していくというグループホームの理念を、毎朝唱和する中で、管理者、職員共にその実践に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者、家族様の考えを最優先にプランを提供し、職員は毎朝の申し送りにて、唱和し共有に努めています。	法人施設とグループホーム、各ユニットの理念がある。管理者・職員は朝の申し送り時にグループホームの理念を唱和しその日の実践につなげている。又、各ユニットにおいては毎年重点を置いて取り組みたい内容を理念として掲げ意識して日々の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭り、行事等や近隣の小学校の運動会に参加したり、施設での夏祭りに地域の方々をお誘いしています。近くの商店へ買い物に行ったり、パンの訪問販売を利用し地域の方と交流しています。	地域との関わりを大切に、秋祭りや、近隣の小学校・保育所の運動会には積極的に参加しており、施設の夏祭りにはチラシや放送で地域の方の参加を呼びかけている。又、職員は地域での活動として月1回地区内道路や町のグラウンド等のゴミ拾いを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設での夏祭りや、地域の方々の慰問、地域サークル「短歌の会」に、職員と利用者が参加し認知症に対する理解の場としています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催しており施設での行事や現況を報告し、行政・地域の方と話し合いを行い意見を取り入れています。	2か月に1回、行政や地区民生委員、駐在所巡査長、元老人会会長、家族代表の参加を得て開催しており、行事・研修・事業報告や現況報告を行い、防災対策等について話し合いを重ねている。	地域との関わりを大切にとの理念を掲げており、運営推進会議においても地域との防災対策相互協力協定の見直しを進めようとしている。近隣地域の区長等に参加を要請するなど、理解と協力が得られるよう、さらなる体制づくりに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営に関する質問や変更の事項に関しては、市町村に相談し回答を得ています。また、事業所の実情を運営推進会議を通じて、市町村担当者に伝え、協力関係を築いています。	運営推進会議に参加してもらい意見を得たり、運営に関する質問など必要に応じて町担当者に相談する等、協力を得てサービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に参加したり、施設内での勉強会を月2度行っている。玄関の施錠に関しては、外部評価の結果をふまえて期間を定め、開錠をしていましたが、施設の立地条件等の環境から継続には至っていません。	月に1度、身体拘束廃止委員会会議を開催し、日常業務において拘束をしないケアに取り組んでいるかを確認する機会となっている。又、研修等も積み重ね、職員は十分に理解している。地理的環境から玄関の開錠は出来ていないが、職員は利用者のそぶり等から察知し、伴って外に出かける等、閉塞感を感じない対応に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加したり、施設内の勉強会や月に一度の委員会にて話し合いを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要となる方がおられる場合は対応したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、入居者・家族様には、十分な説明とご理解を頂き、契約の締結・解約等を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様には面会時、サービス担当者会議の際に意見を伺っています。また、運営推進会議の場に家族様代表の方に参加いただき機会を設けています。	来訪時等に意見を出して貰えるよう、言い易い雰囲気作りに努めると共に、夏祭りやクリスマス会等のイベントには家族にも参加してもらっている。また、運営推進会議には家族代表が参加し意見表出の機会となっている。計画の見直し時にはサービス担当者会議に出席してもらい、意見聴取に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各会議で職員の意見を聞き運営に反映させています。	管理者は職員との対話の機会を多く持つ様に心掛けている。会議の場以外でも職員はユニットリーダーや管理者に意見等を述べ、上司や管理者はそれらの意見を尊重し運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に二度の人事考課による評価を行い、面接において個人の目標や希望を聞き取り意欲に結びつけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や外部研修に参加しています。また、研修資料を配布し伝達研修に取り組んでいます。資格取得への支援もしています。OJTの重要性を理解し取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等を通じ他の事業所との交流がある。必要時には他施設への見学・見学受け入れを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人より不安なことを聞いています。入居後も日々傾聴し、信頼関係を築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に家族様から確認しています。また、サービス担当者会議や面会時に確認しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス担当者会議にて検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を活かし調理の準備や買い物の機会を設け、信頼関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時にセンター方式を活用しています。また、施設内でのイベント等にお誘いしています。家族様が受診に行けない時には支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様と外出したり、お盆やお正月に自宅等へ帰られたりしています。イベント等で馴染みの人との交流もあります。	地元の商店など本人が懐かしかったり馴染みである場所に出かけることを支援すると共に、本人から希望があれば直ぐに家族に連絡し、相談する中で協力しあって本人の希望を叶えられるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が座るテーブルの位置を考慮したり、孤立せず入居者様同士が良い関係作りが出来る様に職員が間に入り支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院または、退居後も家族様に状態確認し相談に応じ対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人、家族様に確認をしています。また、日々の生活の中での会話等で把握できるように努めています。	本人の思いや意向は日々の表情や言動から察知し、業務日誌に記録すると共に申し送り等で周知し対応に向けて取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人と家族様に確認をしています。また、日々の生活の中で把握できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中での健康管理、職員同士の情報交換を行い残存能力の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議において、家族様からの要望を聞き、また職員の意見を取り入れながら作成しています。	介護計画作成にあたっては関係者の意見を取り入れると共にサービス担当者会議には家族に参加してもらい、以前の計画について実施状況を説明して意見を得る等話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートやケース記録に残し共有しています。サービス担当者会議において、情報を用いて見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の支援等のニーズに対応できる様に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの慰問や、小中学生との交流をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週一回嘱託医の往診があり対応しています。定期受診や、受診が必要となった場合は家族様に対応して頂いていますが、困難な場合は事業所の職員が対応しています。また、主治医への手紙による情報提供や必要があれば受診に同行しています。	本人及び家族の希望するかかりつけ医を優先して受診できるように支援しており、週1回嘱託医の往診も受けている。看護師も職員として配置しており各医療機関と連携を図る等、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝・夕の申し送りで報告・相談をしています。必要時には、職員として配属されている看護師と相談し対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域医療連携室や家族様と連絡をとり、経過の観察や病院との連携をし協働しています。長期間の入院が必要となれば、院内カンファレンスを開催して頂き、情報交換をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応にかかわる指針を作成し、家族様に説明しています。主治医・家族様と相談・検討し可能な範囲で対応していますが、医療ニーズが高くなりホームでの対応が困難となった場合は、他職種と情報を共有し対応しています。	重度化した場合や終末期の対応については、契約時に文書で説明し、理解を得た上で意向を確認している。実際には地理的環境もあり療養型病棟等への入院や長期入所施設に住み替える場合もあり、事業所において看取りを行うには至っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命講習を受けています。また施設看護師による事故・特変時の対応方法について指導を受けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練により職員の意識向上に努めています。地域とは防災対策相互協力協定書を交わしています。また、運営推進会議にて地域住民や行政と相談をしています。	消防署の指導のもとで定期的に避難訓練を実施しており、訓練総評として消防署の意見を聞き、職員も話し合いの機会を持っている。災害時の福祉避難所として指定を受け、地域と消防、防災対策相互協力協定を交わしている。また、現状に合わせて見直す必要がある為運営推進会議において協議を始めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応に心がけています。	研修の機会も十分にあり、職員は利用者の人格を尊重しており、言葉かけや対応などからも一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねる様な言動は見られない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いに傾聴し希望を表したり、自己決定できる様支援しています。希望の実現に関しては、可能な限り支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりその日の体調、気分に合わせて食事や入浴時間等を調整しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の購入は家族様にお任せしています。その日着る衣類に関しては、職員と一緒に選んだり、自己決定ができるように努めています。理美容は家族様と馴染みのお店に行かれる方や2ヶ月に一回の出張サービスを受けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物から始まり、食事の準備や片付けを一緒にして頂いています。	職員は季節感を感じてもらえるよう工夫して献立を作っており、利用者には可能な部分で力を発揮して貰っている。食材の買い物は週1回利用者と共にドライブを兼ねてスーパーに出かけている。山菜料理や餅つきを楽しんだり、料理のサークルに参加してお菓子づくりをしたり等、様々な取り組みを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取は電子カルテに記録し管理しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアと週2回のポリデント洗浄をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	電子カルテを活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し定期的に声掛けしています。	パソコンで排泄記録をとり一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、時間を見計らって声掛けをして促し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	電子カルテを活用し、排便の有無と水分摂取量の確認を行っています。定期的な水分提供をし、乳製品や食物繊維の多い物を食べて頂いています。また、体操等を取り入れ運動する機会を設けています。必要な方には主治医に相談して頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調を確認しながら希望に合わせて対応しています。	一人ひとりの希望に添って入浴を楽しめるように時間帯を決めずに支援している。個人で入浴剤を使ったり、ホーム内の風呂だけでなく時には別棟の温泉にも出かけて楽しむ等支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりのリズムに合わせて生活をして頂いています。睡眠に不安のある方については主治医に相談して頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋等を活用し理解に努めています。また、主治医や施設看護師に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様個々のできることやできないことを把握し支援をしています。外出の機会を設け気分転換等の支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物や四季に合わせた外出支援をしています。希望があれば施設近隣へ出かける支援に努めています。また、家族様と一緒に外出されています。	近隣への散歩や中庭の草引き、花の水やり等日常的に戸外に出られるように支援している。また、ドライブを兼ねた買い物や地域の行事への参加、紅葉狩り、お花見等、年間を通して車での外出も多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される方には自己管理して頂いています。所持していない入居者の方には、買い物等の時に支払いをして頂く様に支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも家族様と会話ができる様支援しています。また、年賀状を家族様に出しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの中でも季節感を感じて頂く為、季節の花や写真を飾ったり、旬の食材を取り入れた食事を提供しています。温湿度を管理し、居心地よく過ごせる様な工夫をしています。	中庭の千両やアジサイの新芽の緑色がガラスを通して見えており、内裏雑が飾られる等季節感が味わえる。夫々のユニット内には所々にソファを配置しており居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや椅子の配置をし、個々のニーズにあった環境づくりに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた馴染みの家具等を持って来て頂いています。	居室には使い慣れた物や好みの物を持ち込んでもらえるよう勧めている。ソファやテーブル、ミニ筆筒、テレビなどが持ち込まれており、居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や危険な所はメンテナンスをしています。		